



日本プライマリ・ケア連合学会
中部ブロック支部 活動報告

発行人：佐藤 寿一
事務局 〒466-8560 名古屋市昭和区鶴舞町 65
名古屋大学医学部附属病院総合診療科 内
Tel. 052-744-2951 Fax. 052-744-2951
E-mail: sato.juichi.v7@f.mail.nagoya-u.ac.jp

ニュースレター No. 46 (2024. 6) 本号の編集担当者 若林英樹

【支部情報】

予定

- 1) 『第13回日本プライマリ・ケア連合学会中部ブロック学術集会』
2024年11月24日(日) 会場：岐阜じゅうろくプラザ
- 2) 『中部ブロックポートフォリオ発表会*2025』
2025年3月15日(土) ZOOMによるオンライン開催
- 3) 『第14回日本プライマリ・ケア連合学会中部ブロック学術集会』
2025年11月30日(日) 会場：福井県内

報告

1) 『中部ブロックポートフォリオ発表会*2024』

2024年3月2日(土) ZOOMによるオンライン開催

今年は過去最多の9名の専攻医にショーケースポートフォリオをご発表いただきました。昨年と同様にレベルの高いポートフォリオを提示いただき、盛況な発表会となりました。また東京大学大学院医学教育国際研究センター水本 潤希先生に専攻医・指導医にとって鬼門のテーマである「SDH ポートフォリオ作成・指導の要点」についてミニレクチャーをしていただきました。

【最優秀ショーケースポートフォリオ賞】

三重大学総合診療専門研修プログラム 中山 堯之先生

【優秀ショーケースポートフォリオ賞】

ふじのくに総合診療後期研修プログラム 浅田 彩乃先生

【実行委員会特別賞】

藤田医科大学総合診療科プログラム 毛利 公亮先生

来年度は2025年3月15日(土)に開催予定です。

文責 中部ブロック支部PF発表会実行委員長 安藤友一(名古屋大学総合診療科)

2) 『新家庭医療専攻医・総合診療専攻医合同オリエンテーション』

2024年5月12日(日)14:00-17:30 ZOOMによるオンライン開催

本企画は専攻医が研修を乗り切ることを目標に、「研修手帳活用術」、「振り返りの達人はポートフォリオが得意」、「生涯教育のススメ」の3つのセッションが行われました。最初に複数の小グループに分かれてアイスブレイキングの時間があり、自己紹介やふるさと自慢などをする中で不安や緊張を和らげていただいた後、一つ目のセッションで総合診療専門医と新・家庭医療専門医の関係や専門医取得のために必要な提出物や専攻医の間にやるべきことを教えていただきました。2つ目のセッションでは実践的なポートフォリオの書き方についてご説明いただきました。再度小グループに分かれて、理解不足な点を質問させていただくことで、現状の自分の立ち位置がより明確になったと思います。最後のセッションでは、学びの継続は、ただ直線的ではないこ

とや、想定外の事態をあとで振り返ったり言語化することの大切さなどを学ばせていただき、とても有意義なオリエンテーションでした。

●静岡支部

【活動報告】

1) 救急対応訓練 開催（森町家庭医療クリニック）

森町家庭医療クリニックでは2024年4月18日にスタッフ全職員での救急対応訓練を開催しました。昨年から本格的に開催し今回2回目の開催となります。まずは「救急対応マニュアル」の内容を全員で確認し、その後マネキンとAEDを用いた練習を実施、最後に2チームに分かれて①待合室トイレ前で意識不明者がいる、②駐車場で意識不明者がいる、というシチュエーションで訓練が行われました。昨年も参加した職員は昨年の反省を踏まえて訓練を遂行でき、今年が初めての参加となる新職員は救急時に備えて手順や導線、自分や他職員の役割を学ぶことができました。患者アウトカムを最大化するための取り組みですが、多職種での訓練は診療所でのチームビルディングにおいて非常に有用な機会となっています。



2) 防災訓練 開催（菊川市家庭医療センター）

2023年12月6日に菊川市家庭医療センターにおいて、防災訓練が行われました。

当院は、防災救護所に指定されており、地震等の災害が起こった際に、軽症者を受け入れる拠点の一つとなります。今回の防災訓練では、救護所の設営をメインとし菊川市と小笠医師会の合同訓練として開催されました。



3) はじめての日本語教室（菊川市家庭医療センター）

静岡県菊川市では日本語教育の推進として、初級レベルの「はじめての日本語教室」を毎年開催しており、令和5年度は9月から12月まで、全12回開催いたしました。

教室にはブラジルやフィリピンなどさまざまな国籍の外国人住民が参加し、日本語ボランティアと外国人住民が2人1組のペアとなり、会話を通じて日常生活で使う日本語を学びました。「病院」をテーマにした回では、病院への電話のかけ方や受診時の会話について練習を行ったほか、菊川市家庭医療センターの医師も参加し、学習者の疑問や不安に答えました。

（参加した森田医師の感想）

働く中で「外国人住民は受診に困っているのでは」と感じていました。「はじめての日本語教室」では参加者の方々と、受診での困りごとや難しく感じることを一緒に考えることができました。すべての方が健康で安心して暮らせるよう、誰一人取り残されない医療を目指し今後も頑張ります。



4) 菊川市地域医療を守る会から感謝状の贈呈（菊川市家庭医療センター）

2024年1月4日に医療や福祉、介護のつながりを育てる活動をしている同会が、日々医療に従事している皆さんに感謝の気持ちを伝えようと、菊川市立総合病院と菊川市家庭医療センターへ感謝状を贈呈しました。

センターを代表し松田センター長が感謝状をいただいております。



●福井支部

【活動報告】

1) 在宅ケア講習会開催しました！ @永平寺町立在宅訪問診療所

2024年3月2日 福井大東包括支援センター主催 在宅ケア講習会を行いました。

当院が行っている訪問診療を中心に在宅医療についてお話ししました。在宅医療についてイメージしやすい内容とな

るよう、当院で実際に訪問診療を行っている患者さまやご家族にご協力いただきました。自身や家族の今後について考えるきっかけづくりの場になるようにとの思いを抱きながら、当院での診療内容について講演いたしました。大東地区はもともと自身や家族の将来について意識的に考えておられる方が多いと聞いておりました。今回もたくさんの方に足を運んでいただきました。在宅医療に対して、家族の負担や緊急時の対応などへの不安を抱えている方が多かったのですが、「参考になった」「何度でも話を聞きたい」といった感想をいただきました。今回の講習会を通じて、少しでも住み慣れた家や地域で過ごすことのできる方が増えることを願っています。



2) 総合診療・総合内科センター 福井大学医学部医学科×仁愛大学人間生活学部 健康栄養学科 合同調理実習を開催しました

2024年3月7日、8日の2日間、本大学の医学科1年生と仁愛大学 人間生活学部 健康栄養学科の学生による合同調理実習を開催しました。健康栄養学科と合同で腎臓病食を調理する過程を通して、多職種連携について学ぶ取り組みです。調理方法は2通りあります。①通常調理(フライパンや鍋を使う)と②IH式個別調理システム「dishcook」を使う調理方法です。Dishcookは専用容器に調理前のお米と水、または野菜や魚、調味料を入れ、蓋を閉め、お盆にのせた状態で専用カートに設置し、ボタン一つでお米とメインが同時に調理終了した状態で完成するシステムです。上記2班に分かれ、実食後にそれぞれの調理方法についてメリット、デメリットは何か、腎臓病食の味は想像と比較してどうだったか、についてグループディスカッションを行いました。また、実際の症例を例にあげて、高血圧や糖尿病の患者について医師、管理栄養士という立場から議論を交わしました。どんなことを確認して食生活の提案をするかという議題について、各班それぞれ議論は白熱し、有意義な実習となりました。



3) 在宅薬剤管理指導研修センター研修会” 担当しました！ @永平寺町立在宅訪問診療所

福井県薬剤師会から依頼をいただき、2024年3月7日に看護師吉田と医師楠川がコラボして「多職種連携で解決！

「多疾患併存とポリファーマシー」というタイトルで90分間お話をいたしました。

日頃、外来診療・訪問診療に携わっていて、多職種連携の重要性を実感しています。日本は世界トップの高齢化社会を迎えており、多疾患併存とポリファーマシーの問題を抱える方が本当に多くいます。患者さんご家族、社会に優しい医療・ケアを提供するにはやはり多職種連携が欠かせません。当院の紹介に始まり、当院で多疾患併存とポリファーマシーに取り組んだ2事例を紹介しながら、多疾患併存とポリファーマシーについてお話をいたしました。今後も多職種のみなさんと積極的にコラボして、地域のニーズにあった医療・ケアを展開していきたいと思っております。



4) 実践×協働 健康のまちづくりアカデミー 第7期修了!

家庭医療専門医のコンピテンシーの1つである地域志向アプローチに通ずる「健康のまちづくり」。まちづくりを行う上で、医学系研究科だけでなく、工学系（環境工学）、教育学系、社会学系の関与は重要です。福井大学では、大学の全学部（工学部、教育学部、国際地域学部、医学部）の教員が「地域づくりコンソーシアム」を結成し、平成28年度より、全国の医学部のみならず全学部の学生・専門職による広域多職種連携教育をもとにした通年制のセミナー「健康のまちづくりアカデミー」を開講いたしました。昨年秋より、県内外から5名の学生・専門職等が参加し、特別講義やワークショップを受講、この3月に自分たちで企画したイベントをまちなかで実践して、福井県高浜町を舞台に健康のまちづくりを楽しく学びました。世代間交流と路地探索をテーマに、多くの親子と高齢者でにぎわいました。“まちの気持ちちがわかるまちの救世主”育成事業、今年度も継続して実施予定です。

<http://www.kenko-machizukuri.net/academy/>



5) 「福井県ポートフォリオ発表会」を開催しました 2024年5月25日、26日

医療福祉生協連家庭医療学開発センター センター長 藤沼 康樹先生にご来福いただき、前日のプレセミナーで「メンタリングと初期臨床研修医のサポート」、当日のセミナーで「個別化とHealing」について、ご講演いただきました。その後の専攻医3人によるPF発表会では会場全体で濃密に意見交換が交わされていました。以下に参加者の感想を抜粋します。

- ・地域ケアのことも含めてヒーラーになるための過程をご教授くださりありがとうございました。
- ・大変勉強になりました。一方で、実臨床にどうやって落とし込むか（明日の診療をどうするか）、難しい課題ももらった感じです。勉強です。
- ・personalized care やhealing/healerという言葉に込められた特別な意味が確認できて深められました。ソロ開業医を長年やっていると、自分のスタイルをスーパーバイズされる機会は少なく、「こんなやり方でいいんだろうか？」と不安になることがしばしば（不安に思っているうちはまだマシなのでしょうか）ですが、「まあまあイケてるかな？」と思えるようになりました。ありがとうございました。
- ・非常に重要なところをうまく言語化して伝えていただき大変勉強になりました。興味を持つ、面白い姿勢を見せる大事さを再認識しました。さらに一般化して教えられたらいいなあとつくづく思います。テレビの主人公になったつもりでBGMをならしながらやると、いい人のふりができる気がしています笑
- ・知の巨匠、でした。非常に素晴らしい学びでした。
- ・自分のやっていたことを言語化していただけてなるほどと思えて、こうやって学生や研修医に話していけばいいんだと思えることがいろいろありました。また総合医としてまだまだここは意識しないと、と気づかされることもあって大変勉強になりました。

来年度のPF発表会においても、藤沼先生にご来福される予定です。一同でお待ちしております！



●岐阜支部

【活動報告】

1) 第6回ジェネふらセミナーin 岐阜「君たちはどう歩き始めるか」

岐阜県地域医療研修検討会の主催で、岐阜大学のぎふ医療ケアサークルの学生の皆さんと共に、学生を対象とした総合診療セミナーを開催しました。「ジェネラリスト」と「ふらっと」を掛け合わせた冠名には、総合診療に興味がある人はもちろん、ない人も誰でも気軽に立ち寄れるセミナーになってほしいという思いが込められています。

日時：2023年3月26日（日）9:00~12:30

場所：大垣市スイトピアセンター

対象：全国の医学生・研修医

主なプログラム：

- ① 開会あいさつ：菅波祐太
- ② 総合診療医のポートフォリオを読んでみよう：満尾有沙
- ③ キャリア選択について～いち医師の選択～：弘田義人
- ④ ワールドカフェ：牛越博昭先生、菅波祐太、満尾有沙、弘田義人、朝倉麻由
- ⑤ 振り返り・グループ発表
- ⑥ 閉会あいさつ：牛越博昭先生

当日は、適切な感染対策の下、現地開催で実施しました。

15名の医学生（うち一年生7名）、1名の看護学生、1名の研修医、1名の総合診療専攻医、2名の指導医など、計20名の参加者とともに、医師・総合診療医という仕事の実際とそのやりがい、総合診療医の研究活動について、ひいては個々の医師の私生活の送り方まで、リアリティのある対話をすることができました。

今後も継続的な開催を予定しておりますので、引き続きご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします！

（文責：菅波祐太 揖斐川町春日診療所）

日時 2023年3月26日 午前9時～12時30分
場所 大垣市スイトピアセンター
かがやき活動室6-3
対象者 全国の医学生、研修医
定員 30名
参加費 無料

.....

医師の紹介
弘田義人先生
総合診療医
地域包括ケアセンターいぶき医師
京都大学大学院医学研究科
医療経済学分野博士後期課程

満尾有沙先生
総合診療専攻医
2018年岐阜大学卒業

菅波祐太先生
総合診療医
揖斐川町春日診療所所長

.....

申込詳細 右のQRコードまたは下のURLから
申し込みフォーム
<https://forms.gle/y8aFDwsu2yhhjiqP8>
締め切り 3月19日(Sun)
主催 岐阜県地域医療研修検討会
お問い合わせ 岐阜大学ぎふ医療ケアサークル
メールアドレス gifucare20112@gmail.com
facebook <https://www.facebook.com/gifucare/>

みなさんは総合診療に興味はありますか？
今回のジェネふらセミナーでは
総合診療医の3人の先生をお招きし、
総合診療の面白さについて
お話ししていただきます。
また、普段の学校の講義では聞けない
研究のことや
家庭と仕事とのバランスの取り方、
参加者が疑問に思っていること
についてもお話しして頂きます。
是非ご参加ください！！



2) 2024年度第1回ぎふ総合診療レジデントデイ

日時：2024年5月31日（金）13：00～17：00

場所：岐阜大学医学部本館6階多目的ホール

参加：岐阜県内の総合診療専攻医9名・専門医3名、特任指導医2名、計14名

内容：レジデントデイでは、総合診療医の指導が受けにくい、内科・救急・小児科ローテーション中にも総合診療の知識を身に着け実践していけるよう約2ヶ月に1回の頻度で県内の専攻医を集め、症例検討、レクチャー、振り返りを実施しています。今回は年度初回ということもあり、アイスブレイクとして1年次の専攻医を中心に自己紹介をしてもらいました。その後、2年次の専攻医から症例提示をしてもらい、専攻医、指導医で検討会を実施し、総合診療・家庭医のフレームワークの説明や解説を行いました。今回は60代女性の自宅生活困難事例を元に、複雑困難事例の検討、ICFによるリハビリの検討について講義を交えて検討しました。年次が進んだ先生ほど症例を言語化して捉え、対応策を考えることができおり、年次の若い先生たちはそのことに刺激を受けていました。後半では、個人の目標相談会（この1年間の目標、5～10年見据えた長期の目標、科のメンバーの中で何をしていきたいか）について発表、相談を行いました。





予定

1) 第7回在宅診療で役立つ超音波検査ハンズオンセミナー (心臓・肺)

日時：2024年6月29日(土) 13:00~15:50

場所：総合在宅医療クリニック (岐阜県羽島郡岐南町薬師寺 4-12)

2) 第8回在宅診療で役立つ超音波検査ハンズオンセミナー (腹部・下肢)

日時：2024年10月12日(土) 13:00~15:50

場所：総合在宅医療クリニック (岐阜県羽島郡岐南町薬師寺 4-12)

●富山支部

【活動報告】

<PF 勉強会>

・4月PF勉強会

4月10日に、今年度最初のポートフォリオ勉強会をオンラインで開催しました。

昨年までは前半はPF各エントリーについての解説を行っていましたが、今回から趣向を変えました。今回は前半に2名の専攻医がそれぞれCase-based Discussion (CbD)を行いました。on goingな症例を元にCbDの理解を深め、ポートフォリオ作成のモチベーションアップとなる内容でした。

次回以降も、前半は専攻医自由枠として、CbDやビデオレビューなど、専門医取得に向けて必要なプログラムの助けになる内容を盛り込んでいく予定です。

後半は従来通り、専攻医によるポートフォリオ発表会を行いました。「人生の最終段階のケア」、「臨床における教育と指導」などの領域でポートフォリオの内容を深める議論が行われました。

・5月PF勉強会

5月8日に5月のPF勉強会がオンラインで開催されました。

今回も前半は2名の専攻医がCbDを行いました。どちらの事例も下降期慢性疾患が複数併存するなかでの急性疾患の発症で、家や施設での生活が難しくなっていた事例でした。第三者の目を通すことで新たな視点を得られたり、マネジメントの道が見えたりし、有意義だったように感じます。

後半はグループに分かれ、3名の専攻医によるPFの発表でした。それぞれ、人生の最終段階のケアや医療者自身のケア、家族志向のケアのテーマで議論が行われました。

<臨床研究勉強会>

今年度第1回目となる、とむじぇり専攻医/指導医対象のオンライン臨床研究勉強会を5月30日に行いました。今回は北先生と武島先生によるレクチャー2本立てで開催しました。北先生による「文献検索-AI 大活用編-」では、AIを研究の文献検索、執筆場面でどのように用いるのが効果的かについて、様々なAIツールの紹介を交えてレクチャーいただきました。実際に有料ツールを用いた場合のサブスクリプション料金まで詳細に提示いただき、正に明日から使える知識を伝授していただきました！

武島先生は「学会大会の歩き方」というテーマで、自身の昨年度参加した3学会の経験や写真を交えて学会大会に参加するメリット、学会大会の楽しさ、より楽しむためのTIPSを紹介してくれました。参加者の先生方それぞれの学会大会の歩き方も共有いただき、参加された初期研修医、後期研修医の先生にとって学会大会に参加したくなる会になったのではないのでしょうか！

黒田萌先生に引っ張っていただいている研究勉強会は今年度で4年目を迎えました。勉強会に参加いただいた後期研修医の先生方から学会発表も多数生まれ、研究チームも誕生しました。近いうちに論文も生まれるであろうとワクワクが止まりません。今年度も研究をやってみたいと思う方のサポートはもちろん、日々の臨床疑問をリサーチクwestionsに発展させる力を養い、皆さんの診療の質が上がることを目的にしています。

今後のコンテンツも楽しみに、初期研修医も学生もご興味がある方はぜひご参加ください！

<プログラム説明会>

5月31日にプログラム説明会が行われました。当日は医学生3名、研修医3名が参加しました。

総合診療医について、専門医への道、富山大学総診の特徴、今後の富山大学総診プログラムの展望などについて、高村先生、北先生にお話ししていただきました。質疑応答では、求められる能力を身につける方法について、国内・海外留学についての質問がありました。前者については、何年目になっても自分から学びに行くことを続ける事で、求められる能力を身につけられること、後者については、研究、大学院、臨床いずれの視点でも留学が可能であることが説明されました。

プログラム説明会は7月にも予定されています。富山県に多くの総合診療科専攻医がマッチし、立派な専門医に育つことを願っています。

★6月にはプライマリ・ケア連合学会学会大会が浜松で行われます。今年も富山県から多くの学会参加、発表が予定されています。また、朝日町で学生のための合宿勉強会も6月に予定されています。情報は随時「とむじぇり通信」にアップロードされますので、ご覧いただけたら幸いです。

●三重支部

【活動報告】

1) 『中部ブロックポータル発表会*2024』 (※冒頭の支部情報と同イベント)

2024年3月2日(土) ZOOMによるオンライン開催

日本プライマリ・ケア連合学会中部ブロックポータル発表会2024にて、三重総診専攻医1年目の中山堯之先生が最優秀ショーケースポータル発表賞に選出されました！受賞した本人のコメントをご紹介します。「皆さん、本日はこのような栄誉ある賞に選出いただき本当にありがとうございます。この賞は私個人が、というよりは多職種の方で、みんなで獲得した賞だと思っています。勤務している伊勢病院の多職種連携力、そして伊勢市という地域の連携力の素晴らしさが形になって評価されたことを何よりも嬉しく思います。」今回のケースは、医師の頑張りだけでは間違いなくうまくいかなかったでしょう。

看護師、臨床工学技士、ソーシャルワーカーたちの高いプロ意識があったからこそ、患者さんやその家族が望む人生の歩みを実現できたのです。以上、現場からご報告しました！

2) 「腹部エコーをやってみよう！」 開催

日時：2024年3月19日（火）18:00 から

場所：三重大学医学部附属病院 5階スキルズラボ

講師：山本憲彦先生（三重大学医学部附属病院総合診療科 教授）

学生対象に、腹部のシミュレーターを用いて、実際にエコーを操作。



3) 「医志祭。」 開催

日時：2024年5月31日から6月2日

場所：志摩市浜島町 阿児アリーナ

講演：谷崎隆太郎先生（市立伊勢総合病院）

湊しおり先生（藤田医科大学）

橋本修嗣先生（はしもと総合診療クリニック）

江角悠太先生（志摩市民病院）

三重県内外から50名を超える学生が参加しました。

4名の医師から総合診療医としてのキャリアを学び、その後、総合診療を取り巻く課題について語りあった。

同日に開催された第61回伊勢海老祭りでは、志摩市民病院の連で参加。

最終日は、医学生と市民との座談会で締めくくった。



<支部運営についての情報>

●各県の代表窓口は下記の方々です

三重県；若林英樹、富山県；三浦太郎、石川県；吉岡哲也、岐阜県；森田浩之、福井県；林寛之、静岡県；井上真智子、愛知県；佐藤寿一

●プログラム責任者の会中部ブロック代表；大浦誠

●中部ブロックの活動に関するご意見等ありましたら下記までご連絡ください

中部ブロック支部事務局 kimura.etsuko.f2@f.mail.nagoya-u.ac.jp